

Becotto(ベコット)といふ仲間

浅野牧場 篠内直美

はじめまして。北海道釧路市の浅野牧場で働いている篠内直美です。この牧場の後継者をパートナーとして一緒に酪農をやっています。牧場で働きはじめて丸七年が経ちました。この度「縁があり一年間、このコーナーを担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は私の所属する阿寒・釧路地域の酪農女性グループ「Becotto(ベコット)」について、立ち上げの経緯やその後の活動、今後の目標等について紹介していきます。

友達ができた!

酪農女性グループ 「Becotto」発足

釧路に来た当初、周りにはパートナー以外に友達も知り合いもいませんでした。初めての慣れない牧場の仕事に身体も心も疲れていきました。気晴らしをするにも知らない土地で、友達もおらず寂しさを感じていました。そんなときに農協青年

部に同年代の女性もいるよといつことで青年部に参加してみました。そこには酪農をお嫁にきた人や、実家の牧場で酪農をやっている人など同年代の女性が数名参加していました。何回か会っているうちに、そのうちの一人が「女子部員が増えたので女子会をやろう」と誘ってくれました。

初めての女子会は大盛り上がり!!（こんなにはしゃいだのは久しぶり）というくらい、たくさん喋ってたくさん笑いました。仕事の悩みやプライベートなことなど、なかなか言う機会がなかった話に共感してもらったり、逆にみんなの話を聞いて共感したり、とても楽しかったことを覚えています。この女子会をきっかけに、二〇一六年三月に女性五人で「Becotto(ベコット)」というグループを発足しました。夏にはもうひとりが加わり六人で活動がスタートしました。後から聞いた話で、実は青年部に女性がいることは珍しいとのことでした。同じ地域に、同じような境遇、同じような仕事、

しかも同年代の同性、これは奇跡の出会いだったのではーと今でも思います。

Becotto の名前とロゴ

グループの名前はみんなでいろいろ出し合い、二〇個ほどの候補の中から、「ぐい」（北海道や東北の方言で牛という意味）にリズム良く「うと」をつけた「ぐいうと」を選び、わざに英語表記にして最終的に「Becotto(ベコット)」になりました。

わざにみんなで共通の旗印が欲しかったので、大学時代のイラストレーターの友人にお願いしてロゴを作ることにしました。友人に何パターンかアイディアを出してもらひ、みんなで「女の子をもつと女の子っぽく」「子牛の柄はこんな感じで」「釧路の夕日をイメージした丸ロゴで、色はオレンジで」など意見を出し合いました。その意見をまとめて友人がとても可愛くロゴにしてくれました。みんなで作ったロゴは私たちの顔となりま

した。こんなに素敵なロゴを描いてくれた友人には感謝です。



Becotto のロゴ

牛乳のみてえTシャツと オリジナル牛グッズ

メンバーのひとりがBecottoの

結成前から、牛乳の消費拡大のために背中に大きく「あー、牛乳のみてえ」と書

いてあるTシャツを作つて、仲間内に販売していました。青年部のみんなも着ていて、私も買つて着ていました。その頃、

ブルーでTシャツを作つているのはレッドです。

この牛乳のみてえTシャツを参考に自分たちでもグッズを作ることにしました。きっかけは「牛グッズつてあまりないよね?」という話から「なければ作ればいいのよ!」と牛グッズ好きであるシンクが言ったことです。

デザインがあればインターネットで簡単な集まり、何かお揃いのものが欲しくて考えていたときに、牛乳のみてえTシャツ

作っているメンバーが「このTシャツ、いろんな色が選べるよ」と語ってくれたので、それをユニフォームにすることにしました。ある程度のバランスを考えながら、好きな色をそれぞれ選び、それを各々の固有カラーとしました。なんだか戦隊もののヒーローのようで、とてもテニションが上がつたことを覚えています。

レッド、オレンジ、ピンク、ペーブル、グリーン、ライトブルーの六色。このカラーネームそのままの上での呼称になります。ちなみに私はライトブルーでTシャツを作つているのはレッドです。

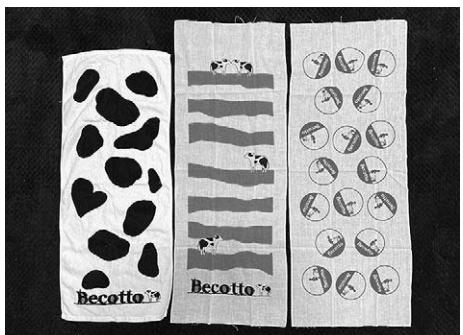
ドを作りました。ピンクは自分でデザインした牛の手ぬぐいやコーラスター、マグカップ、髪ゴムなどを手作りと組み合わせて多彩に作っていました。私個人も牛の写真でポストカードを作りました。

出来上がったグッズは、メンバーの知り合いのお店で販売させてもらいました。牛好きの方や観光のお客さんが買ってくれ、自分たちの作ったものが売れたことにとても感激しました。

その後もいろんなグッズを作つてみては販売させていただきました。そしてそのお店はリニューアルした阿寒の道の駅内に移りました。その際に、なんとBecottoのグッズのコーナーを作つてくれました。そこには定番となつた牛柄タオルや口ゴム柄の手ぬぐい、牛乳のみてえティシャツ、牛マスクを目立つように並べていただいています。そのおかげでグッズも好評をいただき、売上金でいつかみんなで温泉旅行に行けたらと夢を膨らませています。

何が正解? 酪農の基礎を学ぼう!

月一回程度の女子会を何回かやっているうちに、みんなが牧場で哺育（子牛の世話）の仕事をしていることに気づきました。「子牛にミルクをどのくらいやつている?」「ミルクを飲まない子牛にはどうしている?」「下痢対策って何かある?」など仕事の悩みをお互い言い合つていると各牧場でやり方はそれぞれ違つことが分かりました。じゃあ何が正しい



牛柄タオルと Becotto 手ぬぐい



勉強会

のだろう、基本は何だろうとなり、酪農の基礎を勉強することにしました。そこで普及センターにお願いして酪農の基礎を学べる資料を用意してもらいました。そして、月一回の女子会が勉強会になりました。みんなで集まって資料のわからないうところを普及員の方に解説してもらいました。さつくりと酪農の基礎を学んだ後は哺育を深掘りしていくことにしました。各牧場のやり方を数値化（ミルクの量や濃度、回数など）して教科書やそれの数値と比べてみました。現状に課題がある人は他のやり方を参考にして、やり方を変えたりしてみました。他にも、工夫していることなどを共有し、お互いのいいところは詳しく聞いたり、取り入れてみたりと日々の仕事の向上につなが

のだろう、基本は何だろうとなり、酪農の基礎を勉強することにしました。そこで普及センターにお願いして酪農の基礎を学べる資料を用意してもらいました。そして、月一回の女子会が勉強会になりました。みんなで集まって資料のわからないうところを普及員の方に解説してもらいました。さつくりと酪農の基礎を学んだ後は哺育を深掘りしていくことにしました。各牧場のやり方を数値化（ミルクの量や濃度、回数など）して教科書やそれの数値と比べてみました。現状に課題がある人は他のやり方を参考にして、やり方を変えたりしてみました。他にも、工夫していることなどを共有し、お互いのいいところは詳しく聞いたり、取り入れてみたりと日々の仕事の向上につなが

ればとやつていました。

ある程度、勉強が進んだ後はB e c o t t oでの勉強会から、外部のセミナーに誘い合わせて行き、「行けなかつた人は情報を共有するようになりました。私たちがレベルアップすることで牧場経営に良い影響が出ればと思します。

写真展 & SNSでの発信

私はもともと写真を撮るのが好きで、牧場に来てからはよく牛や空を撮っていました。牛をこんなにも間近に撮れるのは酪農をやっている特権ですし、こんなに綺麗な空を撮れるのも釧路（特に夕日が有名）にいるからだと思っています。そこでふと牛だけでなく、「自分たちと牛と一緒に撮ったらしい感じでは？しかも放牧地で！」と思いつき、みんなに提案しました。みんなノリ良く提案を受け入れてくれました。

そして放牧が始まり青草が茂る五月下旬に、それぞれのカラーの牛乳のみでえ

Tシャツとツナギと長靴というお揃いの格好をして浅野牧場の放牧地に集結しました。メンバーが好きなように牛と戯れていぬ姿をカメラにおさめ、そのあと私も撮つてもらいました。二脚を持ってきて、集合写真も撮りました。背中にプリントしてある「牛乳のみでえ」の文字が見える後ろ姿の一枚が、今ではB e c o t t oの代表的な写真となりました。

この放牧地で撮った写真が、すじくイ

キイキと楽しそうだったので、酪農生活楽しいよ！というメッセージを込めてたくさんの人見て欲しいと思いました。

そこまで付き合いのあった地元の温泉施設の方に、施設内にあるギャラリーで写真を展示できないかと聞いてみました。すると快く承諾してくれました。そうと決まれば、みんなでどの写真を展示するかを選んだり、どのように飾るか、写真につけるコメントを考えて書いたりと、初めてのこととにワクワクしながら準備を進めました。同時にB e c o t t oのFacebookページを立ち上げ、放牧地



後ろ姿の集合写真



写真展

での撮影の様子を投稿したり、写真展を告知したりしました。その甲斐もあり写真展は好評で、地域産業である酪農についてや、酪農家には私たちのような年代の女性もいることを知つてもらう良い機会となりました。ありがたいことに新聞やテレビにも取り上げていきました。視覚的にもわかりやすい写真を中心とした発信だったことや、ヨーロッパ代りの牛乳のみでTシャツがカラフルで田を引きやすかったこと、酪農女性の写真展やSNSでの発信が当時は珍しかったことなどのおかげでその後も酪農関係団体等の取材を受ける機会をいたづらになりました。

酪農＆牛乳あるある 川柳コンテストと Be co otto 展—〇—二一

今年の一月一日～一月一〇日には「酪農＆牛乳あるある川柳コンテスト」を開催し、SNSや、「記者さんとの」協力を得て新聞記事にて募集しました。そして三月一日～三一日に地元の温泉施設のギャラリーにて「Be co otto 展—〇—二一『酪農＆牛乳あるある川柳コンテスト発表』」と称し展示を行いました。

コンテストは、とても嬉しいことに全国から七四名一九一句の「応募」があり大盛況となりました。どれも個性豊かで思わず笑ってしまったり、うんうんと激しく共感できたり、牛や牛乳への愛があふれたりと、読んでいてとても楽しく幸せな気分になれるものばかりでした。応募の際には「楽しい企画をありがとうございました」「農家ではないですが、牛乳ファンです」「子ども達牛乳大好きで、毎日一～二㍑消費しています」「頑張ってください！」



酪農＆牛乳あるある川柳コンテスト

応援しています」などのメッセージを添えてくれる方がいてとても嬉しかったです。

募集締め切り後、メンバーで選考会を行いました。大賞にあたるBe co otto賞は秋田県の酪農家、ベンネームみんずさんの「蹴らないで 哺乳したじゃん三年前」が満場一致で決まりました。子牛のときの可愛かった面影はどうやら、大きく成長した牛に作業中蹴られてしまふ悲しみにとても共感できました。他にも各メンバーが選んだライトブルー賞、レッド賞、パープル賞、グリーン賞、ピ

ンク賞を選び、それそれに「メント」をつけました。B e c o t t o 賞には牛乳のみでエシャツとB e c o t t o グッズ（B e c o t t o 手ぬぐい、牛柄タオル、牛マスク）を、そしてメンバー賞にはそれぞれのカラーの牛乳のみでエシャツを賞品として贈りました。そして「」の企画を見てくださった北海道農業総合月刊紙「農家の友」の編集部の方から「」の企画を農家の友で掲載させてほしい。あと農家の友一年分を賞品として寄贈したい」とのお声がけをいただきました。そこで農家の友賞を作り、受賞者には農家の友一年分を送っていました。ありました。

展示では「」応募いただいた全ての川柳を紹介し、見応えあるものになつたと思います。大変嬉しいことに新聞やテレビでも取り上げていただきました。春休みの牛乳廃棄の危機や、酪農界の盛り上げに少しでも貢献できていたら幸いです。ちなみに現在でもB e c o t t o のFacebookページで「」応募いただいた

川柳を見ることができます。「」興味のある方はぜひ覗いてみてください。
(<https://www.facebook.com/Becotto946>)

突っ走りすぎは禁物 みんな違つて当たり前

「」と順風満帆に来たかど「」と実はそうではなく、私が突っ走りすぎていて活動がみんなの負担になつているかもと思う時期がありました。結成当初は仲間ができたことがとても嬉しいくて、たくさんのことを行なでやりたいという想いが先走りしすぎて、かなりのむちやぶりをしてしまつっていました。L R E の返信がなかつたり、集まるメンバーが少なくなり出したりしたところで気付きました。「あれ? 楽しくない?」こんなはずではなかつたと思い、みんなの意見を聞くことにしました。そうしたら、みんながB e c o t t o や牧場生活の中でやりたいことは「バラバラだ」ということがわかりました。「」うが、みんなそれぞれ違うんだな」とわかつてからは肩の力が抜

け、お互いの意見を尊重しながら無理せずやっていけたらいいと思つようになりました。

六人から五人へ。 永久欠番のオレンジ

「」一八年にメンバーの一員であるオレンジが、牧場の後継者である彼氏と別れたため釧路から去る「」になりました。それに伴いB e c o t t o も辞める「」となりました。とても残念でしたがオレンジの新たな門出をみんなで応援しています。メンバーが減ったからといって増やすつもりはなかつたので、オレンジは永久欠番となっています。万が一にも彼女が戻つてきたら、またオレンジとして活動を共にしたいと思つています。

「酪農生活を楽しむ」を モットーに長く続く グループを目指して

B e c o t t o のモットーは「酪農生活を楽しむ」です。農家の高齢化、深刻

な扱い手不足である酪農界で、やつていい人本人が「酪農なんて」「田舎なんて」「汚いキツい臭い」などマイナスなことばかり言つていては人なんて来ません。大変なことがあるのはどの業界も同じです。だつた「楽しい」ことを増やせばいい、自分たちの生活を楽しめばいい。酪農をやつていてる私たちが酪農生活を楽しんで、それを発信すれば酪農に興味を持つてくれる人、酪農をやりたい人が増えるので



Becotto 5人で活動中

はないかと考えています。そのため活動内容は「私たちが楽しいことー」。これまで女子会や勉強会、放牧地撮影会、写真展、グッズ製作・販売、牧場視察など様々なことをしてきました。全て私たちが楽しいと思えることや、やりたいと思つたことです。

楽しめる大きな要因は仲間がいることです。おしゃべりしているだけで何時間も過ごせます。同じ地域で酪農をやってる仲間の存在はとても大きいです。みんながいるから

から釧路での生活や酪農生活が楽しく過ぎるし、悩んだり落ち込んだりしたときはその存在に救われます。

今後の目標は「長く続ける」と。

竜内直美さん

昭和62年生まれ、兵庫県神戸市出身。
大学院卒業後、三重県の農業資材関連の会社に就職。

農業資材を販売するうちに自分でも農業をやりたくなる。

そんな時に大学時代の先輩に声をかけられ酪農界に転職。

酪農をしながら日中は趣味の野菜栽培や狩猟、釣りなどを楽しむ。

阿寒・釧路地域の酪農女性グループ「Becotto(ベコット)」の代表でもある。

メンバーとは同じ地域で何十年という長い付き合いになるので、何かあれば相談でき一緒にいろいろなことにチャレンジできる仲間であり続けたいです。そのためにはお互い無理をし過ぎず、みんなで楽しみながら切磋琢磨し仕事に活かしそこからゆとりを作り、さらにいろいろなことに取り組んでいきたいです。また、その様子を発信し続けることで、つながりや可能性をさらに広げ発展していくれば良いなと思います。

